

福島から堺に避難してきた仲間の声です

私は、福島県郡山市から大阪府堺市に、小学生のこどもたちを放射能から守るため、母子3人で自主的に避難してきました。夫は、いまだに福島に残って仕事をして、生活を支えてくれています。

避難してくる前に住んでいた福島県郡山市は、原発から50~60キロ離れたあたりにあり、国が定めた避難地域に入っていない。しかし、いまだに放射線管理区域である0.6マイクロシーベルト/時を超える0.7マイクロシーベルト/時の空間線量があり、非常に放射線の高いホットスポットも存在するところです。

311に大地震が起こり、原発が爆発してからずっと、放射能から避難すべきか悩む日々が続きました。

パソコンがなかったため、テレビにかじりついて、いつ避難指示が出るのか、どういう状態ならば避難してもいいのか、判断材料を求め続けました。しかし、枝野大臣は「ただちに健康に影響はない」というばかりで、判断材料となるべき情報を何も示してはくれませんでした。

早い段階で、SPEEDIの情報を公表してくれていたなら、原発が大爆発する映像をテレビで流してくれていたなら、もっと早く避難できて、こどもたちに余計な被曝をさせなくて済んだのに…と悔しくてなりません。

何も知らず、避難地域に指定されなかった郡山は、たいした被害はないのだと思いこんでしまいました。

危険な状態なら、国が何もしない訳がないと思っていました。

そんな中、高い放射能が降る中を、地震の影響で断水で水が出ないため、スーパーにもほとんど物資がない中生活するための水や食料を得るため、スーパーの長蛇の列にこどもたちと並んでしまっていました。

それから、私の小学生の長男の体には、異変が起こりはじめました。口内炎、湿疹、発熱、鼻血などの症状が出てきたのです。その時には、まだ知りませんでした。それはチェルノブイリ原発事故の後に、その周辺の人たちに多く表れた放射性物質による健康被害の初期症状そのものでした。

そうした症状は、私の長男だけでなく、多くの福島県に住むこどもたちや、東北・関東に住むこどもたちにまで広くでています。例年とは違うこどもの体調の変化に、多くの母親は直感的に危機感を感じ、データをインターネットで調べて確信を深め、様々なものを失いながらも避難を決意しています。

もし今、母親の私が避難を決意しなかったことで、大切なこどもたちが3年後5年後10年後に命を失うような病気にかかったとしたら、命を失うとしたら、私は自分で自分を許せないだろうと思いました。

枝野大臣が言い続けた「ただちに健康に影響はない」とは、「いずれは健康に影響がある」ということです。

テレビなどでは大々的に公表はされていませんが、すでにチェルノブイリ原発事故の時のデータでは、事故から3年後から甲状腺ガンが増えはじめ、10年後にピークに達していることは分かっています。

ただちに、健康に影響はなくても、放射線を浴びつづけたら、近い将来、健康に被害があらわれることは、すでに分かっているのです。自分の命に代えても惜しくないこどもたちの命が脅かされているとしたら、何を失っても避難しなくてはと思い、福島第一原発から600キロ離れた大阪まで避難してきました。

しかし、その安全だと信じた大阪が、今、放射性物質のついた震災瓦礫を受け入れようとしています。

大阪で受け入れるのは、岩手の瓦礫ということですが、京都で燃やされようとした岩手の松からセシウムが検出されたことがニュースになったように、岩手といえどもすでに放射性物質に汚染されているのです。

その瓦礫を大阪で焼却したら、今、奇跡的に汚染を免れて安全な大阪までも放射能汚染されてしまいます。

私たちは、放射能からこどもたちを守るために、はるばる身寄りのない大阪まで避難してきたのに、その大阪までもが汚染されてしまったら、私たちはどうすればいいのでしょうか？

震災瓦礫を大阪で受け入れることによって、私たちのように被曝したものは更なる命の危険に脅かされるばかりか、今まで被曝していない大阪のこどもたちまで被曝させる危険があるのです。

大阪の人たちにまで、私たちと同じ苦しみを味わってほしくありません。

福島でも、原発は安全かのように言われていましたが、今回の事故によりたくさんの方が健康に被害を受け、将来に不安を抱え続けることになりました。大阪でも、瓦礫の受け入れは安全かのように言われていますが、それを鵜呑みにして受け入れたら、福島の二の舞になってしまうと思います。

瓦礫の受け入れが、被災地の支援のように言われていますが、私はそうは思いません。

被災地の支援をしたいという気持ちには、とても感謝していますが、瓦礫の受け入れだけが被災地の支援ではないと思います。瓦礫を受け入れるより、いまだに被曝し続け命を脅かされている福島のこどもたちの避難を受け入れること、その方がずっと命の方を向いた支援だと思います。

どうか、被災地に遠慮なく、震災瓦礫の受け入れ反対の声を上げてください。そして、瓦礫の受け入れより、避難者の受け入れに目を向けてください。瓦礫受け入れに反対して、避難できる安全な大阪を守っていただくことが、福島をはじめとする被曝し続ける人たちの命を救う支援になります。

これ以上、福島の悲劇を繰り返さないためにも、大阪が汚染されないように瓦礫受け入れを防ぐこと、よろしくをお願いします。